



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター

September 2020 No.77



特集

新型コロナウイルス感染症から
この世代を守るために

特集

新型コロナウイルス感染症から この世代を守るために

世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。世界の子どもおよそ23億人の多くが深刻な影響を受けています。セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界88ヶ国で子どもたち430万人以上に支援を届けています。各地での緊急支援活動の様子をお伝えします。

#ProtectAGeneration



増加し続ける感染者数一

3月に世界保健機関(WHO)がパンデミックを宣言してから、各国で感染症対策が行われていますが、感染者は増え続け、8月には2,000万人を超える人数が確認されています*。医療体制が脆弱な地域や紛争下の国、難民キャンプでも感染が拡大しているいま、継続的な支援が必要です。

*世界保健機関(WHO) Coronavirus Disease (COVID-19) Dashboard (2020年8月12日現在)



セーブ・ザ・チルドレンの子どもを守る活動 — 5つの分野



ケニアで設置した手洗い場で手を洗う子ども

感染の拡大をおさえる

保健医療システムを守り、命を守るために



レバノンで自宅学習キットを受け取る子ども

教育と学び

子どもたちが学び、安全に過ごし、学校に戻るために



スーダンで現金給付の支援を行うボランティアスタッフ

家計支援

子どもたちの生活を守るために



バングラデシュで戸別訪問して家庭環境を確認するスタッフ

子どもの安全と保護

あらゆる暴力から子どもたちを守り、安全を届けるために



国際的な資金拠出

最も貧しい国々や紛争下の国々に暮らす子どもたちを救うために

4月開催のIMF・世界銀行春季会合で、一部債務返済一時停止に合意



エチオピアのマハディヤさん(写真上)は、休校中、セーブ・ザ・チルドレンが運営するラクダの移動図書館から本を借りて自宅学習に励んでいます。

海外での 新型コロナウイルス感染症 緊急子ども支援活動



セーブ・ザ・チルドレンが世界88ヶ国で展開する緊急支援から、アフリカ、北米、中東、アジアの活動事例を紹介します。



3月下旬以降ロックダウン(都市封鎖)の実施など移動規制もあるなか、行政と連携し支援活動を展開しています。

ウガンダ

休校中の子どもたち10万人へ自宅学習キットを配布したほか、ラジオやテレビを使用して授業を放送しました。また、地方遠隔地の保健医療施設に手洗い場を設置し、マスクと手袋の配布、医療従事者1,400人以上に感染症に関する研修を実施しました。

さらに、保健省と共同で、手洗い啓発ビデオを制作しテレビで放送したり、国営ラジオを通して、毎日、心身の健康維持を目的とした子どもと親向けのエクササイズ方法を伝えたりしています。



アメリカ

世界で最も感染者数が多いアメリカでも、子どもたちに食料配布や教育支援を実施しています。



行政と連携して、食料や教育支援をおよそ9万人の子どもたちに届けました。教育支援では、親や養育者へ無料の教育コンテンツや、子どもとの向き合い方についてのヒントを提供したほか、地方に住む家庭が勉強に必要な教材を受けられるよう数百の学区への支援や、学習用の玩具や本の提供も行いました。



イエメン

世界最悪とされる人道危機下にあるイエメンでも、新型コロナウイルス感染症が子どもたちに深刻な影響を与えています。

4月に最初の感染者が確認されて以降、死亡者は500人を超えたという報告や、この感染症に似た症状で亡くなる人が急増しているという情報もあり、感染拡大への懸念が生じています。セーブ・ザ・チルドレンは142ヶ所以上の保健医療施設で646人以上の医療従事者に研修を実施したり、113ヶ所に個人防護具を配布したりしています。また、手洗いの啓発や電話を利用した子どもや親へのこころのケアも行っています。こうした状況のなか、人道支援への国際的な資金拠出は激減しており、私たちは、各国政府に対し資金拠出の重要性も訴えています。



およそ86万人*が避難する世界最大規模のロヒンギャ難民キャンプでも、支援を実施しています。

Bangladesh ロヒンギャ難民支援

5月に初の感染者が確認された難民キャンプ。Bangladesh南東部コックスバザールでは、ロヒンギャ難民を含む300万人以上が生活しており、人工呼吸器も不足し深刻な状態にあります。セーブ・ザ・チルドレンは、手洗い場83ヶ所の設置や、隔離・治療施設の開設、衛生用品キットの配布、感染症予防に関する啓発ポスターの掲示を行っています。また、セーブ・ザ・チルドレンが支援する医療従事者およそ100人が、キャンプ内やその周辺コミュニティで保健医療サービスを提供しています。

* Joint Government of Bangladesh - UNHCR Population Factsheet (as of July 31, 2020)



世界共通! 手洗いをすべての子どもたちへ

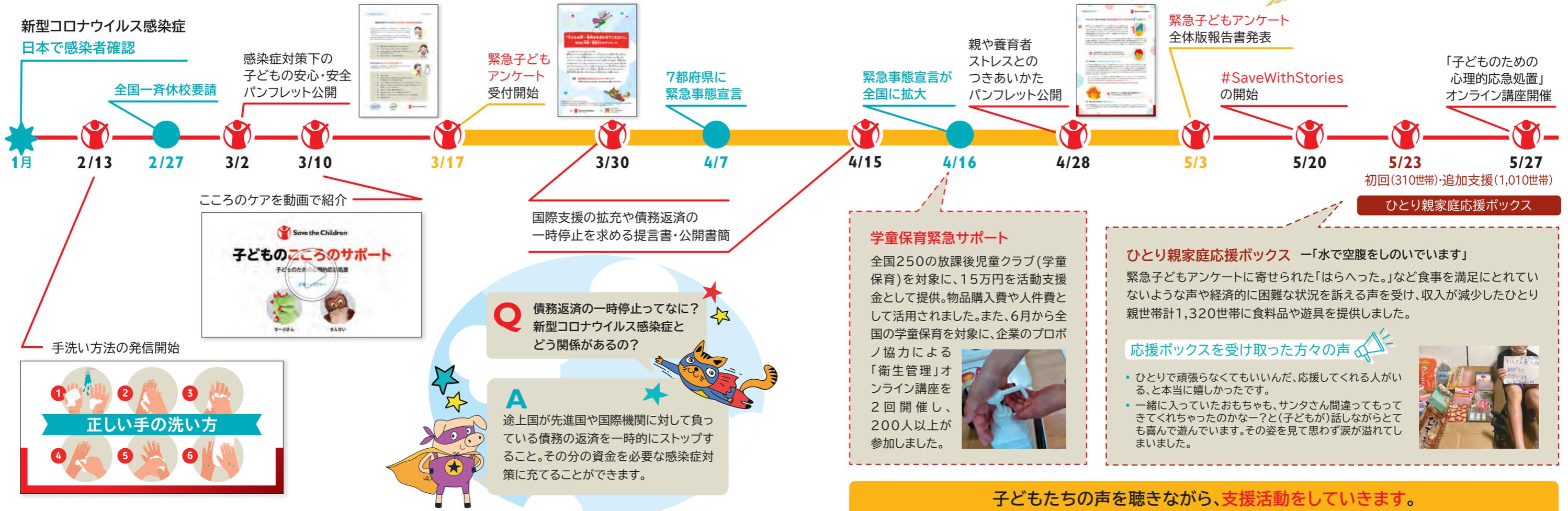
世界中の子どもたちに向けて、文字や会話音声を含まないで、手洗いの仕方を伝える動画をつくりました。ぜひ、ご覧ください。



動画はこちら

国内での 新型コロナウイルス感染症 緊急子ども支援活動

日本国内でも、全国一斉休校の要請や緊急事態宣言の発出など、子どもたちやその保護者なども深刻な影響を受けています。セーブ・ザ・チルドレンの国内での活動を紹介します。



クローズアップ 緊急子どもアンケートー 子どもも感染症対策の当事者

感染症対策下の子どもたちの声を聴くために、3月17日～31日にかけて全国の子どもたちを対象に緊急アンケートを実施。41都道府県から1,422件の声が届きました。

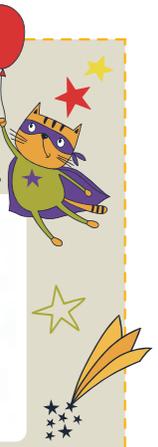
- 3/27 速報版発表 日本政府へ要望書提出
- 3/31 回答受付締切
- 4/11 SNSで子どもの不安に回答開始
- 5/3 全体版報告書発表
- 5/23 オンライン報告会

3月27日には、受付開始から6日間の回答961件をまとめた速報版を発表し、日本政府に迅速な対応を求める要望書を提出しました。

全体版報告書はこちら



アンケートでたくさん書かれた言葉が大きいうつつっています。



子どもたちの声を聴きながら、支援活動をしていきます。

9月 防災週間

非日常事態、子どもにどう寄り添う？

2019年には日本も含め世界で396もの自然災害が発生し、9,500万人以上が影響を受けました^{*}。地球温暖化の影響を受け、今後さらに豪雨や猛暑などのリスクが高まると予想されるなか、今年は新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、私たちは新たな脅威にさらされています。

日常と異なる状況のなかで、子どもも大人と同じようにさまざまな困難に直面します。しかし、子どもは認知的にも情緒的にも発達途中段階にあるため、危機的状況下でニーズやストレスを抱えた時の反応が大人とは異なります。一方で、緊急下で子どもが主体的に声を上げ行動するなど、子どもは大人と同様、困難を乗り越える力を持っています。

非日常事態に、子どもにどう寄り添い、備えるべきか。一緒に考えてみませんか。



このページで紹介しているパンフレットや動画などは、すべて「子どもにやさしい防災」に掲載されています。



サイトはこちら

^{*}Centre for Research on the Epidemiology of Disasters (CRED), Disaster Year in Review 2019 (April 2020)

Q 感染症下での災害に備えて非常用持ち出し袋の中身を見直し、マスクや消毒液を準備しています。子どものために何か準備しておくべきものや避難時に持って行った方が良いものはありますか。

A 基本的な感染症対策の持ち物に加え、普段一緒に遊んでいるぬいぐるみや、お気に入りの毛布、本など、**子どもが落ち着けるものも忘れずに。**



子どもにやさしい非常用持ち出し袋チェックリスト

Q いざ避難が必要なとき、子どもと関わるうえで気を付けるべき点がありますか。

A 事前に、これから何が起きるのか、どうして避難するのか、子どもにわかりやすい言葉で説明をしましょう。

事象の説明だけでなく、命を守るための避難であることや、どういった場所に避難するのかなどを、子どもに分かる言葉で大人が落ち着いて伝えましょう。これから起こることを伝えることで、子どもも準備することができます。



動画「台風への備え」



漫画で学べる 子どものための防災教育教材「とっさのひとこと」



Q 感染症下で、屋内で遊ぶことが増え、子どものストレスが気になります。どのように対応したらよいでしょうか。

A たとえば、室内でできる遊びをいくつか準備して、その中から子どもが自分の好きな遊びを選ぶ機会を作ってみてください。屋内でもできるさまざまな遊びについては「あそびのレシピ」も参考に。



あそびのレシピ

遊びや日常生活の中で、子どもが選択できる機会をつくることで、子どもが状況をコントロールしている感覚を取り戻し、ストレス軽減につながると考えられています。また、遊びは、子どもの成長と発達に欠かせないだけでなく、子どものこころの安定を助け、困難を乗り越える力になるため、どんな時でも重要です。

Q 長引く感染症下で、子どもがかんしゃくを起こしたり、すぐ泣くことが増えて心配です。

A 普段と異なる制限された生活の中で、いつもと異なる反応や行動を示すことは普通のことです。



「子どものための心理的応急処置」パンフレット

自分や家族も病気になるのではないかと不安を抱き、そのような反応につながっている子どもたちもいるかもしれません。これらの反応・行動は一般的なことであり、あらかじめ知ることが大切です。詳細は、「子どものための心理的応急処置」の冊子をご覧ください。

Q 子どもがボランティアに参加したいと言っています。どんなことが出来るのでしょうか。

A 過去の災害時、子どもたちが活躍した事例も、安全確保には十分注意し、子どもの声に耳を傾けて。



過去には、さまざまな媒体から情報を集めて避難を促した例や、避難所で乳幼児など小さな子どもと一緒に遊んだ例、配膳を手伝った例などもあります。一方で、子どもは体が成長段階にあるため、ボランティアの際には大人以上に安全を確保するなど周囲のサポートが重要です。過去の災害時の報告書(P.11)もご覧ください。

大人の心身のケアも大切に

普段と異なる状況下で子どもをケアしていると、思うようにいかずやり切れない気持ちを抱いたり、大人も極度に疲弊したりすることがあるかもしれません。自分の背中には自分で見えにくいですが、食事や休憩、睡眠を見直し、自分に合ったリラックス方法を意識的に実践しましょう。また、一人で悩まず話しやすい人へ連絡や相談をすることも大切です。



PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

10年、20年先の世代も
ファッションを楽しめるように

H&M

H&M
エイチ・アンド・エム・ヘネス・アンド・
マウリッツ・ジャパン株式会社
CSRコーディネーター
山浦 誉史 様



サステナビリティが加速する時代

スウェーデン発のファッションブランドであるH&M社は、ファッション業界が環境や社会に与える影響を考え、未来へプラスの変化を導くため、サステナビリティをビジネスの核に据えたさまざまな企業活動に取り組んでいます。私たちにとって、サステナビリティの実現とは、10年、20年先の世代もファッションを楽しむ社会を実現すること。新型コロナウイルス感染症の影響で社会は大きく変容しましたが、この目標は変わりません。グローバル企業として、引き続き私たちのサステナビリティの目標を達成するために取り組んでいきたいと考えています。

将来を担う子どもたちへ支援を届けたい

私たちは、2013年に古着回収サービスを開始し、そこから得た余剰金は、すべてリサイクル技術の開発支援や環境・社会活動に寄付しています。なかでも将来を担う子どもたちを支援する活動は、私たちの目指すサステナビリティと重なるどころがあり、2014年からセーブ・ザ・チルドレンに寄付しています。今年の豪雨災害では、セーブ・ザ・チルドレンの7月豪雨緊急支援を通して、新品の衣類を支援したところ、従業員からも賛同の声や反響が大きくあがりました。



さらなるパートナーシップの深化を

SDGsや社会課題に関心を示す従業員も多く、私自身もセーブ・ザ・チルドレンによるセミナーなどを通じて子どもたちを取り巻く課題を学ぶことも多いです。今後さらなる連携を通じて、子どもたちが健やかに育ち、ファッションを楽しむことのできる持続的な社会を実現したいと考えています。

Information



「世界の人々の健康に貢献する」
想いをかたちに



田辺三菱製薬株式会社では、新型コロナウイルス感染症流行初期に「社内で従業員募金をしよう」と声が上がリ、募金を実施。集まった寄付金に、労働組合と会社からのマッチングギフトを上乗せし、従業員の想いを、子ども支援に迅速かつ確実に有効活用してほしいとご寄付いただきました。



一つひとつを積み重ねて
息の長い支援を



クリエイティブディレクター佐藤可士和氏が運営する株式会社サムライからは、2011年より東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨などの緊急支援へご寄付いただいています。また、佐藤可士和・悦子ご夫妻としても、体罰によらない子育てを推進するキャンペーンなどにもご賛同いただきメッセージの発信をいただいています。



地域・社会への貢献として



SMBCグループでは、地域・社会への貢献活動の一環として、新型コロナウイルス感染症対策に取り組む非営利団体を支援するため、グループの役職員に募金を呼びかける「SMBCグループ新型コロナウイルス対策支援募金」を実施。集まった募金に会社からのマッチングギフトを加え、ご寄付いただきました。

2020年7月豪雨緊急支援

セーブ・ザ・チルドレンは、2020年7月に発生した記録的な大雨により甚大な被害を受けた九州地域で、熊本県を中心に緊急支援活動を展開しています。

感染症下での支援ニーズの収集

新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるなか発生した今回の豪雨。セーブ・ザ・チルドレンは、感染症の影響を考慮し、被災地へ緊急支援対応チームを派遣せず、発災直後より、熊本県内をはじめとする九州他県の連携団体や行政を通してオンラインで情報収集を行ってきました。

初動支援とオンラインでの情報配信

緊急時の子どもの基本的ニーズを守るために7月13日に熊本県や福岡県、大分県、佐賀県で、連携団体を通して、衛生用品と防災ホイッスル、文具が入った緊急子ども用キット1,000セットを配布しました。17日には、特に被害状況の大きい熊本県の子ども関連施設へ、保育備品などの物資を支援。また、発災直後から、子どものこころのケア「子どものための心理的応急処置」の情報や、避難所や車中泊で避難している子どもたちへオンラインで配信されている「遊び」の情報も紹介しています。

継続的な支援を

行政や連携団体と調整の結果、8月上旬に、熊本県人吉市の小学生と中学生約460人に体操服の支援を行いました。今後も、被災地域への必要備品の支援や子どものための心理的応急処置のオンライン講座などを予定しています。子どもたちが再び安心して学び、遊び、そして保育・学校生活を送ることができるよう、継続的な支援を行っていきます。



緊急子ども用キット(熊本県)

『災害時に子どもたちが果たした
役割の記録～2018年西日本豪雨
の経験から～』が完成しました。

子どもたちや大人から寄せられた260件の体験談や32人へのインタビューなどを1冊の記録集としてまとめています。



冊子はこちら



オンライン報告会を開催しました。

国内外で実施した新型コロナウイルス感染症緊急子ども支援活動の状況をお伝えしたほか、年次報告会として2019年にウガンダとモンゴルで取り組んだ活動についても報告しました。

新型コロナ緊急子ども支援活動報告
アーカイブ動画はこちら



#SaveWithStories 各界著名人105名による、 絵本の読み聞かせ

12月末まで公式InstagramとFacebookから無料視聴できます。



動画はこちら



ACジャパンの支援による広告が スタートしました

セーブ・ザ・チルドレンは今年度、公益社団法人ACジャパンの支援団体の1つに選ばれました。2020年7月1日より、テレビや新聞・雑誌などのメディアや公共交通機関が無償で提供する広告枠において、セーブ・ザ・チルドレンの広告が展開されています。

広告のテーマは、「歓声ですか、銃声ですか。」

この広告を通して多くの方が、紛争下の子どもたちの状況と、子どもの権利を守るために活動するセーブ・ザ・チルドレンへの関心を高めてくださることを願っています。

詳細はこちら <http://www.savechildren.or.jp/lp/ac2020/>



このポスターを掲示しませんか？

ACジャパンによるセーブ・ザ・チルドレンの広告ポスターを掲示していただける企業、学校、団体を募集しています。

サイズはB2(51.5cm×72.8cm)、B3(36.4cm×51.5cm)の2種類がございます。ご協力いただける場合は、ご希望のサイズ、枚数、送付先をご連絡ください。ポスターを通してセーブ・ザ・チルドレンを広く伝える活動にご協力ください。※ご希望の枚数によっては、送料のご負担をお願いする場合がございます。

支援者サービス係 TEL : 03-6859-0068 japan.saveothers@savethechildren.org

© Roger Zouza/Save the Children



Save the Children

水の災害から いま、子どもたちを守る

支援活動にご協力ください 子どもを守るシェルターキット一式(テント、ブランケット、マット)を提供できます。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

編集後記

3月実施の緊急子どもアンケートには「子どもだからとかわないで、きちんと話を、きいてほしい」と訴える声がありました。今も続くコロナ禍。大人は子どもたちの声に耳を傾けているか、改めて問われているように感じています。(編集担当:横田)

表紙写真:新型コロナウイルス感染症緊急支援 食料ボックスを受け取る家族を待つファリスさん(2歳)(レバノン、2020年7月8日撮影)



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年にわたり活動しています。

www.savechildren.or.jp

セーブザチルドレン

検索



*この冊子の印刷におきましては、喜勝印刷株式会社にご支援いただきました。



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター No.77 2020年9月発行 発行元:公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F ご支援に関するお問い合わせ: 03-6859-0068(平日9:30~18:00)